※令和４年度以降入学生用

学校番号	1010

令和８年度　芸術科　［書道］

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	２単位	年次	2･3年次
使用教科書	書Ⅱ（光村出版）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書道Ⅰで学んだことを発展させて、新たな書体を学び文字の表情の違いによる表現の違いを学習します。
・漢字の書から、漢字仮名交じりの書、仮名の書などを体験し、自分らしい文字を書くことができるようになることを目指します。
・作品を鑑賞することで、幅広い感性、鑑賞力を身に付けます。

２　学習の到達目標

・生徒が書により深く興味を持ち、主体的に学ぶことで自分の書に向かい合うことができるようにする。
・古典を学ぶことで創造の根源となる感性を高め、表現力と鑑賞力を相乗的に培いながら自己表現へと高めていく。
・書の伝統と文化について多角的なアプローチで理解を深め、文化に親しみ、次世代へ継承していく態度を育成する。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・書の表現方法や形式、多様性について幅広く理解している。 ・書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付け、表している。	書の良さや美しさを感受し、意図に基づいて構想し、表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考えたり、書の美を味わい捉えている。	書の学習を通して、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	漢字の書	・篆書及び隷書の古典臨書を通じて、表現形式に応じた全体の構成と、漢字の書を構成する様々な要素を理解する。 ・漢字の書体や書風に即した用筆・運筆・字形を工夫すながら表現する。(創作)	a:漢字の書を構成する様々な要素や、各書体の古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解している。 b:各書体の古典の表現形式に応じた全体の構成について理解している。 c:主体的に漢字の書の独創的な表現や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	作品	プリント	振り返りプリント 観察
	篆刻	篆刻を構成する様々な要素、書体、書風や配置等による表現の効果を理解する。	a:目的や用途、意図に応じた効果的な表現の技能を身に付けている。 b:篆刻の表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫している。 c:主体的に篆刻の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。	作品	プリント	振り返りプリント 観察
二学期	仮名の書	・臨書を通じて、古筆(平仮名・変体仮名・片仮名)の表現形式に応じた全体の構成と、仮名の書を構成する様々な要素を理解する。 ・古筆の書体や書風に即した用筆・運筆・、字形、全体の構成を工夫しながら表現する。(創作)	a:線質、字形、構成等の要素と表現効果について構想し工夫している。 b:仮名の古典の価値とその根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書の良さや美しさを味わって深く捉えている。 c:主体的に仮名の書の創造的な表現活動に取り組もうとしている。	作品	プリント	振り返りプリント

※令和４年度以降入学生用

三学期	漢字仮名交じりの書	・用途や目的、表現形式に応じた全体の構成と漢字仮名交じりの書を構成する様々な要素を理解する。 ・感興や意図に応じた漢字（楷書・行書・隷書・草書）と仮名（平仮名・片仮名）の調和等による全体の構成を工夫しながら表現する。（創作）	a：目的や用途、意図に応じた効果的な表現の技能、漢字と仮名の調和等による全体の構成の技能を身に付けている。 b：創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書の良さや美しさを味わって深く捉えている。 c：主体的に漢字仮名交じりの書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。	作品	プリント	振り返りプリント 観察

※　表中の観点について　a：知識・技能　b：思考・判断・表現　c：主体的に学習に取り組む態度